Research Qualifying Examination (R-QE)

概要

3年次終了時に実施します。3年次のヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究で実施した、異なる専門の学生との融合領域研究の成果、ならびに、4年次以降に取組む融合領域研究および博士論文の研究計画について、書面と面接で審査します。審査委員会は学生ごとに設置し、当該学生のアドバイザリ委員会のメンバーも審査委員に加え、研究の新規性・有用性だけでなく、産業技術化の視点も審査基準として、審査します。このResearch Qualifying Examinationに合格すると、4年次以降の本プログラム履修の継続が許可されます。

要件

下記内容に示す書類審査および面接審査に合格すること。

内容

1．書類審査（11月ごろ）

３年次の第２回アドバイザリ委員会書類を、R-QEの書類審査とする。書式は以下。

書式 ：2015_Advisory2nd_paper
提出先：N期生用メールアドレス（office-N@humanware.osaka-u.ac.jp）
〆切：2015年度の予定は11月4日

2．面接審査（1月ごろ）

発表会等を開き、審査する。審査員は各学生の学生アドバイザリ委員が担当する。ただし、学外アドバイザリ委員による審査は必須ではない。

RQE面接審査

日時・場所

2016年１月27日あたり。情報C棟6Fまたは情報A棟2F。

発表内容

以下のようなものを目安にする（計１５分）

4分　専門研究：　研究の重要性。得られた結果や今後予想される結果とその重要性。学位までの計画。
4分　融合研究：　研究の重要性。自身の役割。学位までの計画。得られた結果（あれば）や今後予想される結果とその重要性。
2分　融合による未来のイノベーション、自身の未来像
5分　QA

タイムテーブル（※敬称略）

部屋１

	学生	Adv. 1	Adv. 2	Adv. 3	渡辺(	清水	四方	沼尾	下條	西尾	高木	近藤	鈴木	難波	渡邉(朋	岡田	永井	名田	和田	石黒	細田
13:00	藤井	渡辺(尚	鈴木	NEC	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
13:15	古林	四方	渡辺(尚	NICT	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13:30	横田	鈴木	四方	ATR	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
13:45	清水	四方	和田	NEC	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
14:00	芝井	四方	和田	NTT	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
14:15	吉永	和田	近藤	ATR	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
14:30	休憩（時間調整）																				
14:45	澤田	近藤	四方	NTT	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15:00	水内	四方	近藤	NICT	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15:15	日浅	清水	高木	NTT	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15:30	Zuben	高木	清水	ATR	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15:45	酒井	難波	清水	NICT	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

部屋２

	学生	Adv. 1	Adv. 2	Adv. 3	渡辺	清水	四方	沼尾	下條	西尾	高木	近藤	鈴木	難波	渡邉(朋	岡田	永井	名田	和田	石黒	細田
13:00	徳山	清水	渡邉(朋	ATR	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
13:15	垣塚	渡邉(朋	下條	日立	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
13:30	Dashda	下條	永井	日立	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
13:45	稲垣	永井	沼尾	堀場	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
14:00	Nattap	沼尾	石黒	Panason	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
14:15	渡辺	石黒	下條	Panason	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
14:30	休憩（時間調整）																				
14:45	中西	石黒	西尾	日立	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
15:00	中村	西尾	名田	オムロン	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
15:15	有本	石黒	名田	Microsof	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
15:30	浦井	石黒	細田	東芝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
15:45	進	細田	岡田	Microsof	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
16:00	土沢	岡田	細田	Microsof	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

各学生のアドバイザ(Adv. 1&2)は参加必須（右票の1の部分）。および事後評価を行う。
アドバイザ以外の教員の参加は必須ではないが、参加や意見を強く歓迎。評価には関わらない。

評価

書面またはファイルにより評価。
評価項目は例えば下記のようなもの（書類審査でも同様の項目を評価する）。

専門研究と展望
　研究の重要性が専門外の研究者に対してもアピールできているか
　既に得られた結果や予想される結果の重要性がアピールできているか
　博士課程の期間内において達成できると感じるか
融合研究と計画
　研究の重要性が専門外の研究者に対してもアピールできているか
　既に得られた結果や予想される結果の重要性がアピールできているか
　専門研究と両立して達成できるよう、推進または準備や計画ができているか
融合による未来のイノベーション、自身の未来像
　融合によるイノベーションを意識し、志向しているか
　自身の目標や未来像があり、それに向けて活動できているか
その他コメント
RQEの合格に関して特に問題がある場合はコメントと共にチェック

やむを得ない理由で当日に来ることができない場合などの対応

教員　ラボ内の教員等で責任をもって担当する。

学生　1. インターンなど、その場にいられないけど時間は空いているとき
　スカイプなどによる遠隔対応
2. その時間自体が重要な理由で不可な時（病気等ふくむ）
　アドバイザの先生と調整して、別途、開催する。
　アドバイザの先生に個別に説明してもよい。
　（ただし、日時、会場の調整は学生が行う）

HW簡易イベントカレンダー(150818更新)

＊これは事前のToDoリスト作成を目的とした日程案であり、実際の日程は変更になる可能性が大いにあります。
「どれぐらいの時期に、どのような事があるか？」の参考にのみ使用し、詳細は各イベントの通知を参照ください。

前年度参考（今年度該当無は消去）				今年度予定（および案）					[ ]は委員会別（カラム分け）。[教](n)はn年次教務。
年	月	日	曜日		年	月	日	曜日	[企]▼ [教]全▼ [教](1)▼ [教](2)▼ [教](3～)▼ [選]▼ [産]▼ [他]▼
2014	4	3	木	前期	2015	4	3	金	[企]企画運営委員会 第1回(12-13:00@A308)
2014	4	4	金		2015	4	3	金	[教](1)ガイダンス
					2015	4	3	金	**[企]中間評価、学生・プログラム担当者アンケート実施、4～6月**
2014	4	4	金		2015	4	10	金	[教](1)合宿（HWセミナー）：10-12日
2014	4	11	金		2015	4	10	金	[教](1)ヒューマンウェア基礎論I開始（金曜6限目）
					2015	4	24	金	[教](3)インターン説明会
					2015	5	7	木	[他]教員融合研究テーマ申請
					2015	5	11	月	**[企]中間評価、PO訪問**
					2015	5	14	木	[教](3)イノベーション実践演習1/3（14,15日、特許講習）
2014	6	2	月		2015	5	19	火	[教](1)アドバイザリ、ローテーション希望調査
2014	6	27	金		2015	5	22	金	[他]HW懇親会　2015年はやらず
2014	6	27	金		2015	5	29	金	[教](3)プロジェクト研究テーマ企画書提出
					2015	5	29	金	**[企]中間評価、調書、作成目安　（評価確認7月、個別評価8月、書面評価9月）**
2014	5	29	木		2015	6	4	木	[企]企画運営委員会 第2回(12-13:00@A308)
					2015	6	5	金	[教](3)イノベーション実践演習2/3（5,12,19日、特許戦略Panasonic）
2015	1	27	火		2015	6	25	木	[企]国際アドバイザリ委員会
2014	7	30	水		2015	6	26	金	[産]参画企業との連絡協議会
2014	11	21	金		2015	6	26	金	[教]学生アドバイザリ委員会、外部アドバイザリ面会
2014	7	17	木		2015	7	1	水	[教](1)研究室ローテーション開始（実施期間開始～11月1週目末のうち任意。11月1週目末レポー
2014	7	3	木		2015	7	2	木	[企]企画運営委員会 第3回(12-13:00@A308)
2014	7	18	金		2015	7	3	金	[教](2)アウトリーチ 1/3（未来館コミュニケータ講義）
					2015	7	3	金	[教](3)イノベーション実践演習3/3（3,10,24,8/7、プレゼン技術NEC）
					2015	7	7	火	[他]HW教員セミナー（難波先生@生命新棟2F）
					2015	7	10	金	[他]OASISシンポ
2014	7	9	水		2015	7	15	水	[他]学生合宿（生命発）：15-17日(OISTも招聘)
2014	8	1	金		2015	7	31	金	[教](1)イノベーション入門1/2（説明、Writing, Clic産学講義）：この後、企業アポ取り,企業訪問（任意
2014	8	5	火		2015	8	3	月	[教]学生アドバイザリ委員会1回目、レポート開始、17日締め切り（メンタリング主目的）
2014	8	19	火		2015	8	25	火	[他]OIST交流会
2014	9	3	水		2015	9	1	火	[教]GPIスキル熟達度 評価
2014	9	4	木		2015	9	3	木	[企]企画運営委員会 第4回(12-13:00@A308)
2014	9	29	月		2015	9	16	水	[教](2)アウトリーチ2/3：研究科合格4年と全国の3年へ、学生主体のアウトリーチ会。
2014	9	30	火		2015	9	30	水	[教](1)イノベーション入門2/2(最終討論)
2014	10	2	木	後期	2015	10	2	金	[企]企画運営委員会 第5回(12-13:00@A308)
2014	10	3	金		2015	10	2	金	[教](1)イノベーション創出論開始（毎週金曜日、全8回）
2014	10	10	金		2015	10	2	金	[他]英語クラス開始（毎週金曜・全学年・研究科対象）
2014	10	17	金		2015	10	16	金	[教]学生アドバイザリ委員会2回目、レポート開始、締め切り11/4（M1,3は兼PreQE,RQE書類審査用）
2014	10	17	金		2015	10	16	金	[選]↑PreQE,RQE書類提示。アドバイザリと重複開催。
					2015	10	24	土	[他]全国リーディングフォーラム(東京)
					2015	10	30	金	**[企]中間評価、現地調査**
					2015	11	2	月	**[企]中間評価、ヒアリング・合議評価　11～12月　（評価結果案、12～1月）**
2014	11	6	木		2015	11	5	木	[企]企画運営委員会 第6回(12-13:00@A308)
2014	11	7	金		2015	11	6	金	[教]学生アドバイザリ委員会2回目、審査開始、～PreQE面接前週までに審査（11/25日まで）
2014	11	7	金		2015	11	6	金	[選]↑PreQE書類審査を兼ねる。
					2015	11	6	金	[教](3)↑RQE, プロジェクト研究中間審査書類を兼ねる。
2014	11	21	金		2015	11	20	金	[教](2)アウトリーチ3/3：より一般に向けて（ラボカフェ@なにわ橋駅など）。
2014	12	1	月		2015	12	1	火	[選]Pre-QE面接審査（選抜委員会）
2014	12	1	月		2015	12	1	火	[企]企画運営委員会 第7回（PreQE合否メール審議12/1～4日）
2014	12	4	木		2015	12	3	木	[企]企画運営委員会 第8回(12-13:00@A308)
2014	12	5	金		2015	12	4	金	[選]Pre-QE結果発表
2014	12	3	水		2015			日	[他]OASIS IT連携フォーラム
2014	12	15	月		2015	12	18	金	[選]H27年度HW入試・説明会1（吹田・豊中同時開催）
2015	1	5	月		2016	12	14	水	[教]学生主体融合領域研究支援経費　公募開始（または通知開始）
2015	1	13	火		2016	1	13	水	[選]H27年度HW入試・説明会2（吹田のみ）
					2016	1	27	水	[教]RQE面接審査（アドバイザリ委員会。学内委員は必須。）
					2016	1	27	水	[教](3)↑プロジェクト研究最終審査を兼ねる。
					2016	2	1	月	**[企]中間評価、評価の決定　2～3月**
2015	2	5	木		2016	2	4	木	[企]企画運営委員会 第9回(12-13:00@A308)
2015	2	23	月		2016	2	22	月	[選]H27年度HW入試・願書受付（3/2締め切り）
2015	2	28	土		2016	2	29	月	[教]学生主体融合領域研究支援経費　公募締め切り→審査開始→3月中に総長承認→4月に採択通知
2015	3	10	火		2016	3	4	金	[選]H27年度HW入試・書類選考（3/7合格発表）
2015	3	18	水		2016	3	16	水	[選]H27年度HW入試・面接審査
2015	3	19	木		2016	3	17	木	[企]企画運営委員会 第10回(12-13:00@A308)選抜合否判定　（3/18合格発表）
2015	3	20	金		2016	3	21	月	[教]GPIスキル熟達度（秋の評価を再確認することを促す）
2015	2	26	木		今年度未定				[他]海外合宿
					今年度未定				[他]指導教員説明会
2014	11	21	金		今年度なし				[企]HWシンポジウム
					不定期				[企]PO訪問
					通年実施				[教](3～)インターンシップ（国内、海外）

参考：教務講義リスト

	年次	開講科目名	内容
必	1	イノベーション創出論	各種分野の外部講師による講義（後期、金曜2-3限目）
必	1	ヒューマンウェアセミナー	合宿、ローテーション
必	1	ヒューマンウェア領域基礎研究	在籍研究科での研究 + イノベーション入門
必	2	ヒューマンウェア融合領域研究	在籍研究科での研究 + アウトリーチ
必	3	ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究	融合研究
選	4	ヒューマンウェアPI融合領域プロジェクト研究	融合研究
選	3	イノベーション実践演習	参画企業によるOJT
必	3,4	インターンシップ	インターン国内・海外、最低一回
選	1	ヒューマンウェア基礎論I	特任座学（前期、金曜6限目）
選	1	ヒューマンウェア基礎論II	特任座学（後期、金曜4限目）

＊講義の流れ

研究：領域基礎（各ラボ・1年）→融合領域（各ラボ・2年）→プロジェクト研究（3年）→PI研究（4年）
産業・社会：イノベーション入門（1年前期）→創出論（1年後期）→アウトリーチ（2年）→実践演習（3年～）・インターン（3年～）

ヒューマンウェア融合領域プロジェクト研究

概要

異なる専門領域の学生からなる研究開発チーム（4~8名程度）を構成し、ヒューマンウェア融合領域の小規模の研究開発プロジェクトを実施する。プロジェクトの企画・立案から運営・実施までを研究開発チームが主体となって取り組む。異なる研究領域の学生と親密にコミュケーションを図り、異分野との交叉を主体的に考え、イノベーションを創起する力を育むために、自主性を重んじた活動「斎同熟議」を取り入れる。小規模の研究開発プロジェクトに主体的に取組むことにより、強いリーダーシップを存分に発揮し研究開発プロジェクトを牽引できるPIとして必要な能力を涵養する。

要件

1．下記内容に示す提案書の審査、中間審査、最終審査を通り、かつR-QEに合格すること。

2．以下のいずれかのタイプの融合研究（異なる研究からなる参画者による研究）に参加し、認定を得ること。

- 「学生主体融合領域研究支援経費」による融合領域研究　→　HWプログラムによる認定
- 履修生同士等の融合領域研究　（研究責任教員をたてること）　→　研究責任教員による認定
- 教員提案の融合領域研究　（テーマ一覧リンク）　→　研究責任教員による認定
- その他、場合により上記相当の研究を認定　→　HW教務委員会による認定

内容

1．提案書の提出（5月末）

今後（３年次以降）に行うと考えている融合研究の提案について、指定の書式に記入し提出すること。審査員によるコメントを返し、場合によってはブラッシュアップを求める可能性がある。なお、既に進行している研究、または既に成果物が得られているような研究であっても、提案書における計画の代わりに経緯等を記入し、本書式を用いて記入および提出を行う事。

書式　：HW_ProjectRes_proposal_form
提出先：ファイルシステムを利用して提出（事務局からのメールに従う）。
〆切：履修年度5月末日

2．中間審査（11月ごろ）

R-QEにおける書類審査のうち、融合研究に関する部分を審査する。この時点で上記要件２にある認定を得ること。なお認定書は以下。

書式　：HW_ProjectRes_certification
提出先：ファイルシステムを利用して提出（事務局からのメールに従う）。
〆切：2015年度の予定は11月4日

3．最終審査（1月ごろ）

R-QEにおける口頭審査のうち、融合研究に関する部分を審査する。

学生アドバイザリ委員会

概要

本プログラムでは、各学生に対して、学生アドバイザリ委員会を設置する。学生アドバイザリ委員会は、学位審査委員会の構成を念頭に、専攻教員の他、他研究科教員 1 名、 産業界など大学外のメンバー1 名を含む数名のメンバーによって構成される。学生アドバイザリ委員会を年 2 回開催し、研究活動、学習、進路などについて、専門領域および融合領域における学術的視点、ならびに、産業技術化の視点からアドバイスを行う。

目的

各学生に対し、個人的な指導・支援のメンタリング機能と、習熟度の評価・審査の機能を提供することを目的とする。本プログラムでは、３つの研究科および参画企業が協力し、分野を超えて新たな方向性をもつイノベーションを生むことで、社会の発展や新産業の創造に資するグローバルリーダーを育成することを目的としている。この目的を達成するためには、学生が自らで考えて道を切り開いていくことに加え、この行動に対して定期的に、現在をリードする複数の視点からアドバイスされることが効果的と考えられる。 これにより、学生が心置きなく新しい道に挑戦することができ、それをより有意義な方向に調整されたり、さらに具体的で新しい方向性が見えてきたりすることが期待される。なお、アドバイザからコメントおよび評価を得るためには、自身の意思、研究や活動状況などを伝える必要がある。このため、申請書などの訓練にもなる。

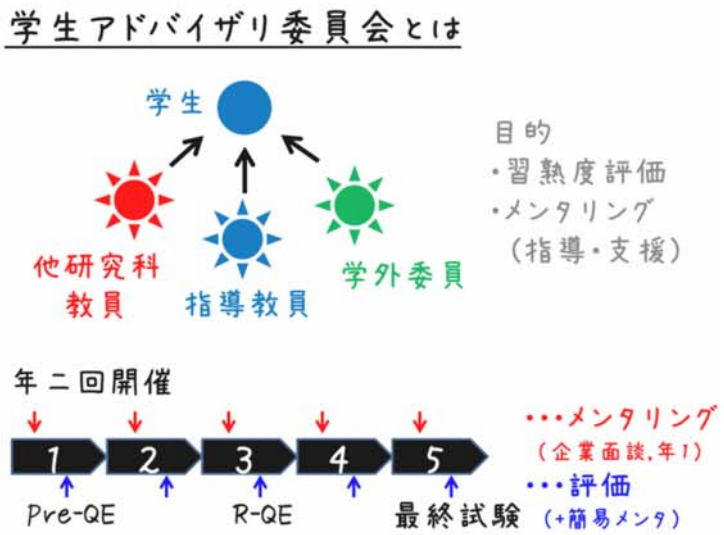
時期

各年次に対し、第一回（6～8 月ごろ）及び第二回（11 月ごろ）の二回。
また学外委員との面会の機会も極力設ける。
・学外委員とは５～７月ごろに面会の機会を極力設けるので、これに参加するよう心がける。
・学内委員は同級生の指導教員（またはその研究室の先生）なので、ローテーションや遊びに行くときなどの機会を利用して下さい。※面会は義務ではありません。

内容

委員会の構成に関しては、目指す人材像が分野を超えること、および多様かつ激動する現在をリードすることから、組織としての画一的な価値観や方針ではなく、異なる分野・立場からのメンタリングおよび評価を行う委員会を設置する。各年次の第一回は、研究活動・進路・キャリア・人生についての個人的なメンタリングを主な目的とする。具体的には、書面および一部面会にて行う。第二回は、習熟度の評価・審査を主目的とする。 具体的には、学生が申請書を作成し、アドバイザがその申請書内容に対する評価、申請書の書き方に対する評価など、記載内容に対するフィードバックを行う。なお、奇数学年（１・３・５年次）第二回の報告書は、Pre-QE、R-QE、最終試験の一環となる。

概念図



詳細内容

学生アドバイザリ委員会について

- 各学生に対し、３人の担当アドバイザを設ける。

アドバイザ１：指導教員
アドバイザ２：他研究科教員（研究室単位での担当を依頼しています）
アドバイザ３：産業界など大学外メンバー（会社を仮想的に一人とみなします。年度ごとに同じ会社の別の人に変わるかもしれませんが、情報を共有してもらうよう依頼しています）

- 各アドバイザが以下に記すメンタリング・評価・審査の三つの目的で、個人的、学術的、産業的視点からのアドバイスを行う。
- 年2回開催する。

奇数年次にはPre-QE、R-QE、最終試験における審査を兼ねる。

３つの目的

A)　メンタリング

主に研究活動・進路・キャリアパス・人生相談などについてアドバイスする。
書類形式（A4一枚程度）、および面会形式による。

面会形式について（義務ではない）
- アドバイザ２とは、研究室ローテーション時など自由。
- アドバイザ３とは、可能な限り年に一度、面会の機会を提供する。

（面会時には自己紹介・研究紹介を兼ねた概略図を１枚用意する。）

B)　習熟度の評価

各アドバイザの視点から主に研究内容や報告書の書き方などを評価する。
書類形式（A4四枚程度）による。

- 研究などの活動を記述した内容に対する、各委員の視点からの評価。
- 内容が幅広い人に伝わり、高く評価される書き方であるかの評価。

C)　審査の一環（奇数年次）

形式は「B：習熟度の評価」と同様であり、これを審査の判断材料とする。

実施時期

- 第一回（7～8月ごろ）

全学年、「A：メンタリング」を目的として実施。

書式 ：2015_Advisory1st_paper_form　(English guide)
提出先：ファイルシステムを利用して提出（事務局からのメールに従う）
〆切：2015年度の予定は８月１７日

- 第二回（11月ごろ）

偶数年次は「B：習熟度の評価」を目的として実施。
奇数年次は「C：審査の一環」を目的として実施。

書式 ：2015_Advisory2nd_paper_form
提出先：ファイルシステムを利用して提出（事務局からのメールに従う）
〆切：2015年度の予定は１１月４日

- 不定期

可能な限りアドバイザ３との面会の機会を提供する。
（2015年度以降は６～７月ごろを予定）

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム

平成27年度 学生アドバイザリ委員会　担当一覧(学生別)

1期生(2013年度入学)　24名

学生所属	学生氏名	委員1 (ラボ)	委員2 (他研究科)	委員3 (学外)
情報科学研究科	藤井　祥平	渡辺(尚)先生	鈴木先生	NEC
情報科学研究科	日浅　夏希	清水先生	高木先生	NTT
情報科学研究科	徳山　健斗	清水先生	渡邉(朋)先生	ATR
情報科学研究科	水内　良	四方先生	近藤先生	NICT
情報科学研究科	芝井　厚	四方先生	和田先生	NTT
情報科学研究科	Thammasan Nattapong	沼尾先生	石黒先生	Panasonic
情報科学研究科	Dashdavaa Khurel Tulga	下條先生	永井先生	日立
情報科学研究科	中村　達哉	西尾先生	名田先生	オムロン
生命機能研究科	Brown Zuben Patrick	高木先生	清水先生	ATR
生命機能研究科	古林　太郎	四方先生	渡辺(尚)先生	NICT
生命機能研究科	清水　天馬	四方先生	和田先生	NEC
生命機能研究科	澤田　莉沙	近藤先生	四方先生	NTT
生命機能研究科	横田　将志	鈴木先生	四方先生	ATR
生命機能研究科	酒井　智史	難波先生	清水先生	NICT
生命機能研究科	李　楽施　※2015年度休学中	名田先生	石黒先生	Panasonic
生命機能研究科	垣塚　太志	渡邉(朋)先生	下條先生	日立
生命機能研究科	土沢　誉太	岡田先生	細田先生	Microsoft
生命機能研究科	稲垣　成矩	永井先生	沼尾先生	堀場
基礎工学研究科	吉永　司	和田先生	近藤先生	ATR
基礎工学研究科	中西　惇也	石黒先生	西尾先生	日立
基礎工学研究科	有本　庸浩	石黒先生	名田先生	Microsoft
基礎工学研究科	浦井　健次	石黒先生	細田先生	東芝
基礎工学研究科	渡辺　美紀	石黒先生	下條先生	Panasonic
基礎工学研究科	進　寛史	細田先生	岡田先生	Microsoft

2期生(2014年度入学)　20名

学生所属	学生氏名	委員1 (ラボ)	委員2 (他研究科)	委員3 (学外)
情報科学研究科	Juan Lorenzo Hagad	沼尾先生	難波先生	東芝
情報科学研究科	楊　剣	八木(厚)先生	上田先生	Microsoft
情報科学研究科	乙倉　麻里	村田先生	天野先生	NICT
情報科学研究科	山田　拓哉	下條先生	森本先生	NEC
情報科学研究科	高橋　慧智	下條先生	天野先生	Microsoft
情報科学研究科	松井　和輝	前田先生	石黒先生	オムロン
情報科学研究科	鳥居　航	前田先生	上田先生	オムロン
情報科学研究科	櫻井　悟	前田先生	鈴木先生	NEC
情報科学研究科	酒谷　佳寛	四方先生	大澤先生	堀場
情報科学研究科	小森　隆弘	四方先生	土方先生	堀場
情報科学研究科	森田　啓介	清水先生	難波先生	NICT
生命機能研究科	南　宇人	天野先生	村田先生	東芝
生命機能研究科	ABRAHAM ANTHONY OVIE	難波先生	沼尾先生	ATR
生命機能研究科	濵屋　政志	森本先生	下條先生	Panasonic
生命機能研究科	平岡　陽花	上田先生	前田先生	日立
生命機能研究科	本谷　康平	大澤先生	土方先生	NTT
生命機能研究科	松尾　康平	鈴木先生	石黒先生	Panasonic
基礎工学研究科	冨永　登夢	土方先生	四方先生	日立
基礎工学研究科	立川　恭平	石黒先生	森本先生	NTT
基礎工学研究科	大久保　正隆	石黒先生	前田先生	ATR

3期生(2015年度入学)　23名

学生所属	学生氏名	委員1 (ラボ)	委員2 (他研究科)	委員3 (学外)
情報科学研究科	岩崎　悟	八木先生	山下先生	Microsoft
情報科学研究科	高　博　奇	西尾先生	藤田先生	NEC
情報科学研究科	志垣　沙衣子	東野先生	七五三木先生	堀場
情報科学研究科	肖　恒	八木先生	山下先生	NTT
情報科学研究科	水上　誠	前田先生	七五三木先生	Microsoft
情報科学研究科	村上　雅哉	村田先生	石黒先生	NTT
情報科学研究科	大渕　拓也	西尾先生	柴田先生	NEC
情報科学研究科	祐村　実旺	四方先生	岡田先生	オムロン
情報科学研究科	陸　悦超	萩原先生	鈴木先生	ATR
情報科学研究科	和田　康介	前田先生	佐藤先生	日立
情報科学研究科	齊藤　紘美	四方先生	柴田先生	東芝
生命機能研究科	山村　耕平（特）	岡田先生	佐藤先生	堀場
生命機能研究科	水山　遼（特）	七五三木先生	前田先生	NTT

生命機能研究科	田中　祐	鈴木先生	四方先生	Panasonic
生命機能研究科	藤田　瑞希	藤田先生	四方先生	Panasonic
生命機能研究科	徳田　加奈子	山下先生	前田先生	東芝
生命機能研究科	畑中　恵茉	柴田先生	八木先生	ATR
基礎工学研究科	MENESES CARNERO, ALEXIS JOSE (特)	石黒先生	村田先生	オムロン
基礎工学研究科	ZHENG, XIQIAN	石黒先生	萩原先生	東芝
基礎工学研究科	酒井　和紀	石黒先生	八木先生	オムロン
基礎工学研究科	孫　雨庭 (特)	石黒先生	藤田先生	日立
基礎工学研究科	島谷　二郎	石黒先生	西尾先生	日立
基礎工学研究科	北嶋　友喜	佐藤先生	東野先生	Microsoft

(特)印・・・特別選抜生、青字・・・情報所属、赤字・・・生命所属、緑字・・・基礎工所属